

# アメリカ映画に描かれる「白人と黒人の関係性」の 虚実

## —「ロッキー」と「クリード」を例に—

坂本淳矢

アメリカ映画ではしばしば、差別や対立などの人種問題が取り扱われるが、「白人と黒人の関係性」について作品のなかで実際の史実とは異なる形で描かれている可能性がある。そのような問題意識に立ち、人気映画シリーズである「ロッキー」シリーズと「クリード」シリーズの一連の作品に描かれてきた「白人と黒人の関係性」と現実のアメリカ社会を比較して、映画が現実をどの程度正確に反映しているのか検証を行った。

その結果、アメリカ映画に描かれる「白人と黒人の関係性」には、基本的に現実のアメリカ社会の世相が反映されている一方で、史実とは真逆の白人と黒人の対立構図が描かれていたり、黒人の視点や価値観が排除されていたりするなど、現実を反映しきれていない部分が存在することが判明し、世界的なヒット作にも「白人と黒人の関係性」について不正確な理解を社会に広めてしまう危険性がある問題点を指摘した。